

もっと活用 支援室！ ＜情報発信編＞

支援室から情報発信！

皆さんは団体の情報を誰に・どのように伝えていますか？広報の手段や、伝えたい人に向けてのアプローチを一緒に考えていきましょう。

支援室では、志免町HP・情報誌・Facebookで情報発信をしています。

＜支援室を活用した情報発信とは＞

◎支援室情報誌へ団体寄稿

→団体で開催するイベントの告知や開催報告を掲載しています。



◎支援室にポスター・チラシ掲示・配架

→支援室内外の掲示板に団体のお知らせなどを掲示、配架しています。

◎支援室FBに掲載を依頼

→まちづくり支援室FBのページに団体の活動や告知を掲載しています。

まちづくり支援室の動き

「協働のまちづくりの推進」のためには、住民活動団体の支援はもちろんのこと、「ボランティアを受け入れる、活動の場を提供する側」の環境づくりも重要な要素です。

2月9日(金)ボランティアを受け入れている福祉施設や病院の担当者にお集まりいただき、情報交換会を開催しました。ボランティアの力を活かしたよりよい組織運営や、住民がボランティア活動に参加できる場(環境)づくりについて、情報や意見を交換しました。その中で、どの担当者からも「職員の穴埋めボランティアではない、ボランティア一人一人の意思を尊重し

ながら、施設運営に参画してもらえようコーディネートを行っている。」という言葉が語られました。また「ボランティアをする側、受け入れる側が、相互に理解しあい、活動を進めていくための各施設の取組」を志免町内でさらに波及させていこうと参加者同士、認識を持つことができました。ボランティアをしたい人が参加しやすく、活躍できる環境づくりのために今後も連携し、取り組んでいきたいと思ひます。



まちづくり支援室は、 住民活動を支援し、志免町と町民の皆さんとで協働したまちづくりをすすめるために設置された施設です。専門のコーディネーターを配置し、NPOやボランティアに関する情報を発信するとともに住民活動に関する相談やアドバイスを行っています。



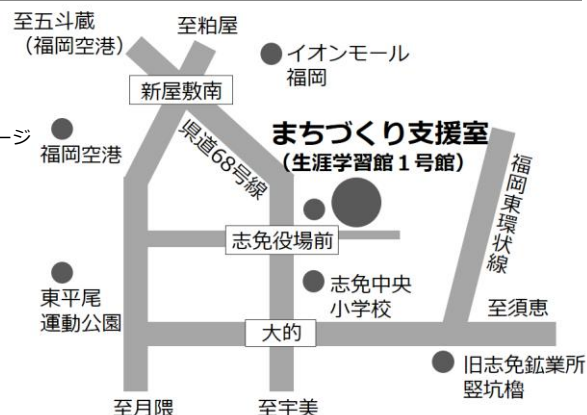
▼支援室からのお知らせ

- 4月27日(金)10時より、支援室登録団体の更新説明会&交流会を開催します。詳しくは、団体宛にお知らせいたします。
- 支援室利用の手引きを作成しました。登録手続きの流れや支援室活用の方法を、分かりやすくまとめました。

★次号<Vol.18>は2018年6月発行予定です。



▲公式ホームページ



- **発行** 志免町まちづくり支援室
- **発行日** 平成30年(2018年)3月31日
- **編集** NPO法人ミディエイド
- **住所** 〒811-2244 福岡県糟屋郡志免町志免中央1-3-2(生涯学習1号館内)
- **TEL** 092-936-8626
- **FAX** 092-936-8626
- **E-mail** collabo@town.shime.fukuoka.jp
- **開室時間** 9:00~17:00(火曜・木曜・土曜)
9:00~21:00(水曜・金曜)

The 志免町まちづくり支援室

2018.3.31

Vol.17

レポート

【評価講座】団体活動の成果とは、目標にどれだけ近づいたか！

＜本号の内容＞

- ★【レポート】評価講座
- ★【活動ポイント解説】ボランティアを受け入れる
- ★【もっと活用 支援室！】-情報発信編- ほか



自団体の活動はうまくいっているのか、これでいいのかと考えたことはありますか？平成30年になって初めての講座は「成果を伝える報告をしよう」と題して、NPO法人ミディエイドの宮田智史氏を迎えて、開催しました。今回は1月23日火曜に実施し、昼と夜の2回開催としました。

■成果と結果の違い

まずは成果についての解説がありました。成果と混同されがちな言葉に「結果」がありますが、その2つの違いを簡単にみると、下記の表のようになります。

結果	成果
・何かしらやれば出てくる ・目標がなくても出る	・目標の達成した程度 ・活動前の目標設定が必要
例) 目的：男性の育児参加の推進 内容：男性向け育児講座の開催 目標：受講者の育児参加時間を増やす	
30人受講した	受講者の育児に携わる時間が受講前より、平均週3時間増えた。

上記の例からすると、講座自体を開催すれば、たとえ参加者が無くても「0人」という「結果」は必ず出ます。一方成果は、男性の育児参加がいかに進んだか、もともと目指した状態にどれだけ近づくことができたのかを表します。

■成果を出すには「目標」が重要

結果と成果の大きな違いは「目指す目標の設定」をしているかいないか、という点です。つまり成果を出すためには、活動開始前の計画や準備の段階で、目指す状態についての目標を設定することが重要となります。逆に目標を設定しなければ「成果は出ない」ということになります。

■成果や報告は団体の信頼につながる

今回は、少人数の勉強会スタイルを採って、参加団体の活動を具体例に挙げながら、成果やそれを「報告」することについて学びました。受講者からは「事例が豊富でわかりやすかった」「成果について考えるきっかけになった」という感想が寄せられました。

住民活動では、活動の実施自体が優先となり、成果や報告は後回しになりがちです。しかし、団体を支えてくれる人たちに対して成果を報告することで、団体に対する信頼や協力を得ることにつながります。

■活動の振り返りや改善にも役立つ

目標と成果を意識することで、活動の自己評価もできるので、活動がうまくいっているかどうか見極めることにも活用できます。活動の振り返りや改善策を考えるとときに応用できるのです。